

## Infection Prevention

Technical Spotlight Vol.2

### 内視鏡洗浄・消毒プロトコルの標準化に向けて — ディスポーザブル洗浄ブラシの活用 —



医療法人社団 顕鐘会 神戸百年記念病院 内視鏡センター  
内視鏡関連専門臨床工学技士、消化器内視鏡技師

吉村 兼氏

#### はじめに

患者さんにとってより安全で質の高い内視鏡検査を提供できるかどうかは、日々行われる内視鏡の洗浄・消毒の出来不出来によって左右される。

今回は高水準の内視鏡の清浄化を実現し、かつ、そのクオリティを院内で一定に維持するためのノウハウについて、神戸百年記念病院 内視鏡センターの吉村兼氏にお話を伺った。

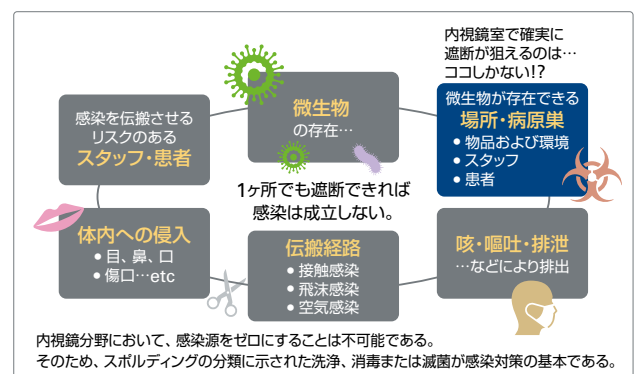
#### 内視鏡室における感染対策の基本 — 感染の発生を抑えるために重要なこと —

感染対策の基本と聞くと、標準予防策(スタンダード・プリコーション)と併せて、手指衛生や状況に応じた个人防护具(PPE)の着用を誰もが頭に浮かべるであろう。しかし、それらを徹底しても院内感染が根絶に至っていないことは紛れもない事実である。院内感染の要因と考えられる事象は複数あり、感染経路も幾つかに絞られてくるが、我々医療従事者も媒介の一因になってしまう可能性があるということとは極めて遺憾と言わざるを得ない。

医療従事者をトリガーとした院内感染の多くは、「理解したつもり」「実践したつもり」で行った感染対策に起因すると考えられる事象も少なくない。しかし、それは「不運であった」の一言で片付けることは決して済まされない。特に、内視鏡室のように機器に依存した検査治療を実施する部屋での感染対策には、感染の基本に加えて、さらに考慮しなければならない点がある。それらについて、感染の輪、スポルディングの分類、スイスチーズモデルを用いて紹介する。

この輪のどこかを1ヵ所でも断ち切ることが必要とされている。

この輪の中で内視鏡は「場所・病原巣」に相当する。しかし、内視鏡を取り扱う際には検査時にも洗浄・消毒時にもPPEの着用と手指衛生の徹底はすでに常識であることから、内視鏡が関連する感染の輪を確実に切断できる機会は、関連機器の適切な洗浄・消毒と周辺設備などの清拭の2つに絞り込まれてくる。



#### ■ 感染の輪

図1に「感染の輪」を示す。感染の成立を防止するためには、

図1 感染の輪

続きは[会員サイト](#)でご確認ください。